

令和3年度 学校自己評価表（分掌目標・重点目標）

教育方針	国家及び社会の有為な形成者として、社会の変化に主体的に対応できる能力や創造的知性を培うとともに、個性を尊重し、生涯にわたって学び続ける意欲をもつ心豊かでたくましい人間の育成に努める。				
重点目標	1 自主性・主体性の育成	2 個性を生かす教育の充実	3 豊かな人間性の涵養		
各分掌における評価					
分掌	年間目標	今年度重点目標	具体的評価項目	評価 A～D	成果と課題
教務・情報	1 生徒一人一人の進路を実現する履修指導力の向上 2 情報化の推進 3 円滑な校務運営の推進 4 校務支援システムの円滑な運用	新教育課程を履修した教員の履修指導力の充実、生徒の履修に対する考え方の徹底	教育課程と進路指導との関連に対する教員の理解度 生徒の半期履修に対する考え方	C	履修計画の現職教育において「70%以上の理解」とした教員が昨年度より減少した。次年度から新教育課程も始まるため、より一層の理解度向上に努めたい。
		授業における情報機器利用の推進	情報機器を活用した授業を実施した教員の割合	B	プロジェクターなどの機器の数が増え、視覚的に分かりやすい授業が実施できた。
企画・研究	1 「進路探究」「産業社会と人間」「読書活動」「海外語学研修」の内容充実 2 教員の授業力向上	「進路探究」の内容充実	関係者、担当者による検討会、意見交換会の回数	A	学年や学科によって、探究方法を工夫して指導できた。探究内容を深めるために週一回の担当者会議を実施し、生徒の理解状況を把握しながら授業を創った。教員の意見を集約して、担当教員全員で授業を実施した。今後指導に当たる教員に授業運営方法を引き継ぎたい。総合学科2年次生の三木町と連携した探究活動のあり方を工夫する必要がある。年間を通して、学校行事や学級活動と連携して、一貫性のある内容となるように更なる工夫と改善の具体化が必要である。また、生徒が主体的に取り組む仕組み作りを具体化する必要がある。各学年の担当者に学年主任を入れて、2・3年に関しては、以前通り学年主任が中心となり運営する方が良いと考える。学校全体として探究活動が軸になるように、組織を作るべきである。また、総合学科と文理科の学びをどのようにつなげるのかを考えるべきである。
		読書活動の推進	図書館の年間の総貸出数	C	1年生の進路探究の調べ物を、図書室の本を使うよりも、一人一台タブレット端末の導入により、インターネットで検索することが多くなった。その分、図書室からの本の借り出し数の伸び悩みにつながったと思われる。広報活動としては、司書教諭や係生徒が作成する図書室内のポップ、係生徒が分担任して作成する「図書館だより」がある。また、広く一般生徒に購入希望図書を募っている。今後も調べものとしてだけでなく、楽しみとしての読書体験を増やしていくように努力していきたい。
総務	1. 清掃活動の充実・施設設備の安全管理 2. PTA活動の推進 3. 広報活動の充実 4. 防災意識の向上	清掃活動の徹底	清掃に対する職員・生徒の意識向上 ゆきとどいた清掃ができていたか	B	きちんと清掃する当たり前の習慣は身に付つつある。以前よりはゆきとどいた清掃ができていたが、さらなる意識向上に努めたい。職員数の減少により清掃監督区域が年々広がっている。
		広報活動の充実(HP)	HPの内容の充実・更新の回数	B	HPIにおいてリアルタイムな情報発信ができていた。更新の回数は以前より格段に増えている。内容については本校関係者向けにやや偏っており、一般や中学校関係者に向けての内容を充実させたい。
進路指導	1 個々の進路希望に対応した指導を行う 2 各学年の進路ガイダンスおよび学習指導を充実させる	第一志望の進路達成	難関大学を含む国公私立大学に現役生が50人合格	B	目標1の50人を超えたかどうかについては、現時点では不明。生徒それぞれの進路希望に応じた指導を行うように、各学年団と分掌内で連携を取りながら行事内容を検討し、実施した。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響から大きい行事の中止、縮小など大切な行事がいくつか実施できなかったのは残念である。それでも、対面形式のものをオンラインにするなどしつつも、なんとか実施できたことは、例年並みの指導はできたことと考える。
		クラス担任、保護者への各種進路情報の提供	学校アンケート該当設問への回答結果の利用	B	教育活動に関する保護者アンケートによると、「充実した進路指導が行われていると思うか」との設問に対して、「そう思う」とどちらかといえば「そう思う」を合わせて22%、「そう思わない」とどちらかと言えば「思わない」を合わせて46%、肯定的回答の方が否定的回答よりも優位に多かった(二項検定 $p < 0.001$)ことから推測して、概ね目標を達成できたものと考えられる。
生徒指導	1 基本的な生活習慣の育成 2 規範意識や倫理意識の向上 3 安全意識の向上	情報モラル教育の充実	携帯電話校内使用違反件数	B	携帯違反件数は昨年同様減少した。しかし、インターネット上でのトラブルやスマホの利用の仕方について課題は多い。ネットに潜む危険性やSNSの利用など、継続的な情報モラル教育を実施する。
		交通事故の減少	交通事故件数	C	今年度は自損を含む接触事故9件が発生した。事後の処理については、ほとんどの生徒が適切にできた。交差点での一時不停止や不十分な左右確認が原因の場合が多かった。交通規則の遵守と共に交通安全指導をはかる。
人権・同和教育	1 あらゆる教育活動を通じての人権・同和教育の推進 2 人権・同和教育HRの指導内容充実 3 人権・同和教育に関する教職員研修の充実 4 効果的な保護者啓発の推進	人権・同和教育HRにおける指導案の更新	人権・同和教育HR指導案が更新できたか	A	人権・同和教育ホームルームの前後に、指導案の検討会と振り返りの会を持ち、生徒の実情に応じてテーマを変更したり、利用する資料の更新をしたりすることができた。また、HP上でも実施内容を公開した。
		職員間の人権課題について討論できる場を提供する	人権課題について話し合う機会が増えたか 答えた教職員の割合	C	今年度も職員向け「茶館」を、毎月、発行することができたが、その目的の職員間の交流の場とはなっていない。来年度は、多くの職員を巻き込めるよう発行の形態を、さらに検討していきたい。
特別活動	1 充実した生徒会活動を運営できる生徒の育成 2 生徒の行事運営による主体的な生活態度の養成 3 HR活動を通じた友愛の精神の育成	生徒の自主的・自立的な取り組みができるようにサポートをする	行事後の実行委員への達成度調査の実施や職員アンケートの実施	A	文化祭(非公開・2部制の開催)、体育祭(10月に延期開催)、クラスマッチとも、生徒主体で運営し、実行委員の生徒は充実感を得ることができている。
		各行事について、特別活動部全体で取り組み、協力体制を確立する。具体的な業務の引継ぎができるように資料を整理して残していく。	行事担当者が協力して携わることが出来たか、昨年度の反省や改善点を今年度にいかに生かしたか、資料の整理・情報の伝達ができただか	B	グループ会を複数回もち、グループ全体で課題を共有することができている。コロナに対処した運営の仕方を話し合うとともに、方向性を共有できた。担当を基本2人にして、経験者と未経験者が組み合わせようとしたため引き継ぎの面でも機能した。
保健・教育支援	1 健康課題を見つけ、進んで健康の保持・増進ができる生徒の育成 2 不登校生徒に対する早期の対応	生徒保健体育委員会活動の充実	委員への達成度調査	B	委員会活動について、「よかった(44.4%)」「どちらかと言えばよかった(55.6%)」と答えた委員は合計で100%ではあったが、活動の振り返りの中に、「もっと活動できたよよかった」「3年生はあまり活動がなかった」といった意見があった。今後、心身の健康管理意識の向上を目指した生徒から生徒へ広げる生徒保健体育委員会活動を、生徒とともに、年間を通して検討し展開したい。
		支援シートの充実をはかり、学校全体で支援する環境を作る	全職員で支援の必要な生徒の情報を共有した回数	C	支援シートを3度作成し、学校全体で支援が必要な生徒の情報を共有し、支援に繋げることができた。支援が行き届かないケースもあり、早期に保護者と連携し対象生徒に働きかけるため、来年度は学校生活アンケートを入学者周知に提出をお願いしようと考えている。